

週休2日

働き方改革に取り組む新建協会員

原組 (新潟市江南区)



原社長

完全週休2日制の導入を考えた背景について、原社長は「最初はやはり求人をしてもらえないかと考えたこと。次の世代を考えた時に現場で働く技術者や作業員がいなくなるのではないかと不安が出てきた。40代や50代で未経験の人も多かった。反響が大きかったのは事務員の募集。以前ハローワークで募集した時は全く反応が無かった。約3年前にきつと今回も難しいだろうと思いつながらハローワークにお願したところ、求人が掲載された途端に3日間で6人の応募があった。6人を2回と休みになっていった。

完全週休2日制の導入を考えた。ここで思い切った週休2日制にすれば応募が来るのではないかと考えたこと。採用したのが、皆さんから応募の決め手は完全週休2日制だったと言われたと明かす。完全週休2日制の導入後、社員はどのように変わったのか。「毎週必ず土曜日が休みになるので心のゆとりが生まれてきた。金曜日になると顔色が違う」。原社長自身が働き始めた当時は土曜日と祝日は仕事をするのが当たり前で、日曜日も仕事をしてきた。時間がたつにつれて、ようやく土曜日が月に1回、月に2回と休みになっていった。

原組(原啓治代表取締役)は2018年3月から完全週休2日制を導入した。当初の一番の目的は社員全体の平均年齢が上がっていく一方で、若者の採用が難しくなっていた状況に不安を感じていたことだった。土・日・祝日を休みにした結果、「社員に心のゆとりが生まれてきた」ことが大きな変化と振り返る。新潟市の「健康経営認定事業所ゴールドクラス」の認定を取得している同社。完全週休2日制と合わせて、社員に対して「とにかく1カ月でも1日でも長く健康な状態で仕事をしてほしい」との思いを持つ原社長に、取り組みの現状を聞いた。

社員の心にゆとり生まれる

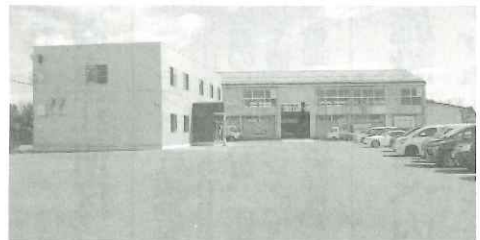
長く健康で仕事をしてほしい

休みが多ければ楽になるし、人間的な生活ができる。現場での仕事は真冬でも真夏でも外の作業になり、肉体的にもつらい。やはり1週間のうち2日くらいはゆっくり休まなければいけない」と休日の大切さを強調する。

週休2日を確保するために最近「国に追随する形で県も新潟市も週休2日に対応するようにしてきた。新潟市のモデル工事では週休2日を達成すれば工事成績評定で加点してもらえるようになり、数%だが経費も見られるようになってきた」と状況が変わってきたと感じている。

「株式会社原組(新潟市江南区)」の経営理念は「技術と経営に優れ、社会に貢献し信頼される企業を目指す」。従業員25人は全て正社員。地域貢献のためは2020年6月に移転した新社屋は、原社長をはじめ旧出身の社員が通っていた旧割野小学校跡地を新潟市から購入し、敷地内に新築した。

田上町は、新年度の水配水管等布設0万円、事業費として、当初予算200万円、その円を計上3取水井業務委託00円を建設取得



旧割野小学校跡地に建設した新社屋(左)。奥の元体育館は工場兼作業場として

三糸市格取得を新年度予算00万円建設技術係る費用した建設する。対象者免許▽車転技能講習土木施工級・2級技術士▽1工管理技補助者要な経費



田上町 配水管等布設0万円、事業費として、当初予算200万円、その円を計上3取水井業務委託00円を建設取得